



切磋琢磨

【発行日】平成29年6月13日

【発行者】角田高等学校

校長:鈴木 琢也

【連絡先】0224-63-3001

空手道部、陸上部 東北大会出場！

6月3日(土)、4日(日)の両日を中心に行われた県総体の結果、空手道部女子団体組手・女子個人組手、陸上男子400mHで東北大会出場を決めました。東北大会に出場する生徒諸君は、宮城県代表として堂々と戦ってきてほしいと願います。

さて、県総体では、空手道、ソフトテニス男女、剣道の応援に行きましたが、勝利を目指して全力を尽くして相手に立ち向かっている選手の姿がありました。空手道競技女子個人戦では痛めていた膝の靭帯を試合中に痛めて、最後の総体で力を十分出し切れなかった生徒の悔し涙が印象的でした。また、最後の県総体となる3年生が粘り強く最後まで諦めずにボールを追って、チーム全員が一丸となって戦い、その執念が逆転勝利に結びついた部もありました。生徒達にとって、それぞれに貴重な経験ができた総合体育大会だったのではないのでしょうか。

また、どこの会場に行っても保護者の皆様やコーチの皆様の応援がありました。無償で駆けつけ、陰で支えてくれている方がいるということを生徒達は忘れてはいけなと感じました。



<県総体結果>

○陸上部：男子400mハードル 第6位 2年 古山 凜

○空手道部：女子団体組手；第3位，女子個人組手；第5位 3年 天野 未来

6月15日(木)から前期中間考査が始まります！

角白定期戦や県総体も終わり、6月15日(木)からいよいよ前期中間考査が始まります。

1年生にとっては初めての定期考査となりますが、その結果により単位が認定され、進路決定を左右する大変重要な考査となります。

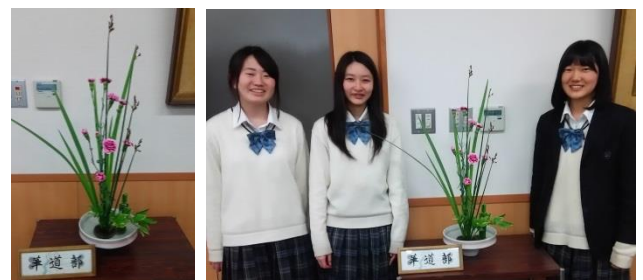
朝、校内を巡回していると、朝早く登校して教室で教科書を開いている生徒が多くなってきたと感じます。2年次では定期考査に向けての意識付けのために、学年全体で放課後学習会に取り組んでいます。また、5月22日(月)からは、1、2年生の進学者を対象とした「チャレンジタイム」も始まりました。落ち着いて学習に取り組む環境が整ってきたと感じます。

中国語で「勉強」は、「少し無理をする」とか「我慢する」という意味で使われているそうです。「学習内容のレベルが高くて分からないけど、ちょっと頑張ってみる」というのが勉強の意味です。「何のために学ぶか分からない」という人がいますが、それは、その人が学んでいないからです。学ばなければ学ぶ意味は分かりません。

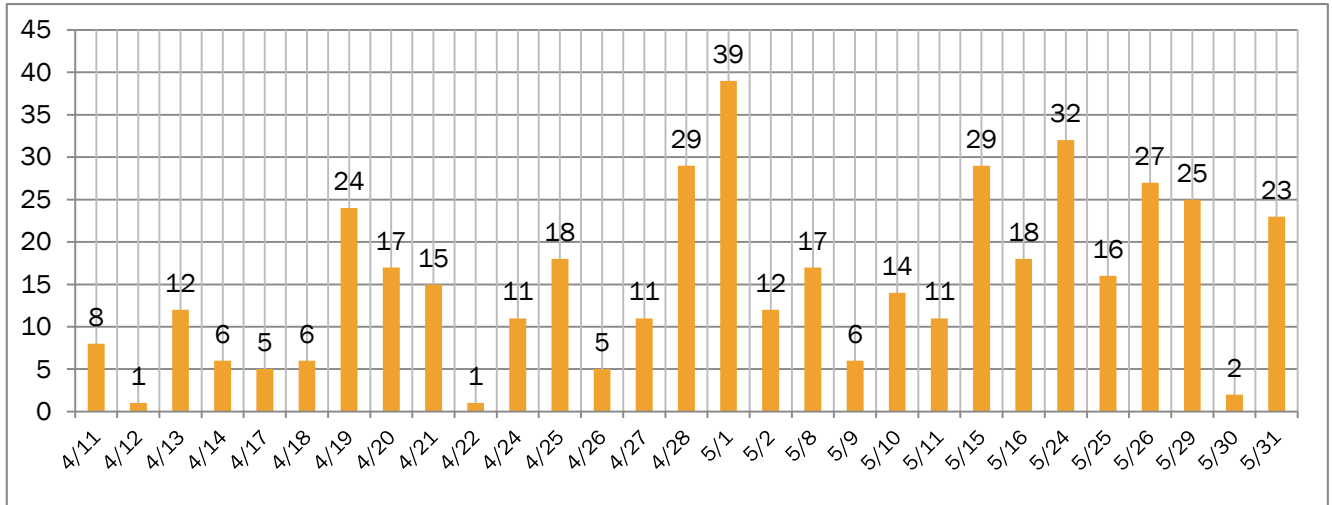
希望進路を達成するためには、逃げずに立ち向かうことが大切です。部活動を通して学んだことと同じではないのでしょうか？

華道部の生徒達が部活動で生けた花を校長室に届けてくれました。まるで風景の一部を切り取った一枚の絵画を見るようで、まさに日本の伝統文化の香りを感じます。

これからもよろしくお願ひします。



図書館図書貸し出し数の推移



グラフは4月、5月の図書館の図書貸し出し数です。この2ヶ月間で、図書貸し出し数が累計で440冊を超え、全校生徒が約1冊を借りた計算になります。

以前書店で「校長の品格」という書籍を見つけ、手にしたことがあります。その最初に書かれていたのが「読書」でした。校長の品格にとっても読書は欠かせないものなのです。

読書を通して様々なことが学べ、人生を豊かにしてくれますので、今後も続けてほしいと願います。

アメリカドナー高校生との交流会！

姉妹校を提携しているアメリカデラウェア州のドナー高校の生徒達が、この夏本県で開催される「第41回全国高等学校総合文化祭 みやぎ総文2017」の国際交流事業の一環として、総合開会式及びパレードで「ドラムライン」を演奏します。

ドラムラインとは行進しながら楽器を演奏するマーチングバンドの一種です。

本番前の7月27日（木）には、ドナー高校の生徒達が本校に来校してドラムラインの練習や吹奏楽部との交流会、日本の伝統的な部活動の見学・交流などを行います。保護者の皆様も参観できますので、ぜひご来校ください。

● 定期戦を通して感じたこと

「私が高校時代の3年間は負けなしでした」と生徒達の前で話をしましたが、今年の定期戦を振り返り、改めて勝つことの難しさを実感しました。

先日、定期戦で審判をしていただいたある方から話を聞く機会がありました。「定期戦ならではの独特の雰囲気があって総体の審判より緊張した」と語っていました。それだけ生徒達の勝ちたいという真剣な気持ちが伝わっていたのだと思います。

私は高校時代美術部でしたので、専ら応援ばかりで試合に出場した選手の気持ちは分かりませんでした。しかし、校内に掲示したピラの「打倒白高」や「牛興滅龍」の文字をレタリングしたり大壁画を描いて士気を高める一助を担ったものと自負しています。

現在の定期戦は男子校時代のもを継承していますが、そもそも定期戦は男子校が始める以前に角田女子高校と白石女子高校との間で実施されていました。その意味では、現在の定期戦は男子校、女子校それぞれの伝統が受け継がれているものなのだと思います。

私は今年の定期戦を終えてようやく角田高校の一員として認められた感じがしました。1年生諸君も定期戦に向けての応援練習を通して角田高校生としての自覚が芽生え、定期戦を経験して初めて角高生として認められたと感じたのではないのでしょうか。定期戦は角田高校生になるための通過儀礼であり、角田高校にとって、なくてはならない行事なのだと感じました。定期戦に向けて全校が一丸となって一生懸命取り組むからこそ卒業後に定期戦のことを懐かしく思い出して語ることができるのだと感じました。 来年こそは勝利しよう。